

事例5 単元 「伝記やノンフィクションを読み、感想を書いて交流し合おう」

## 感想を書いて交流し合おう

国語 第5学年  
穴水町立穴水小学校

### 1 事例の概要

本校では、研究主題を「学びが生きる『活用力』を身につけた子の育成」として研究を進めている。『活用力』を「習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決し、その過程や結果を伝える力」と捉え研究を進めてきた。

その取組の一つとして、国語科では、指導事項の系統性を意識し、単元を通しての「つけたい力」「活用する力」を明確にし、その活用することを意識した単元計画を立てている。また、単元名も工夫し、児童が、この単元でどんな力をつけ、どのような言語活動を行うのかの見通しをもって意欲的に学習に取り組めるように設定している。

本事例では、人物の考え方や生き方を学ぶことができるように新たなジャンルの本にも目を向け、「感想をまとめる」学習を行う。指導計画の第二次で叙述をもとに感想をもつ学習を行い、第三次で「つけた力」を活用し、自分で教材文を読み、感想を交流し合って、友だちの感じ方や考え方にふれ、自分の考え方を広めたり深めたりして感想文を書く実践である。

A-1 研究構想図

A-2 「活用力」の具体的な実践

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・伝記やノンフィクションなどの人の生き方について書かれた本に興味をもって読み、感想を交流させ、考えを深めようとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- ・書かれている事実に基づいて、自分の感想をまとめながら読むことができる。  
(読むこと：(1)エ)
- ・感想文を書くために、効果的な読み方を工夫して教材文を読むことができる。  
(読むこと：(1)オ)
- ・自分の感じ方や考え方を明確にして、必要な事柄を整理して感想文を書くことができる。  
(書くこと：(1)ア)
- ・表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。  
(言語についての知識・理解・技能：(1)ウ(ウ))

#### (2) 指導上の工夫点（視点）

##### ① 単元名の工夫

- ・読むジャンルの本を意識し、お互いの感想を交流し合い、単元の終わりに感想文を書くことまでを見通せるように単元名を設定した。

##### ② 「活用力」を意識した単元計画の工夫

- ・第二次で、教材文から人物を評価する言葉とその根拠となる文章や理由、その人物と自分と比べて書くことなど「感想をまとめる」力をつける。第三次で、熱意や信念をもって生きる人の話「森を育てた漁師の話」を読んで、第二次でつけた力を使って感想文を書く。
- ・感想を交流し、「友だちの考えの活用」を図り、友だちの感じ方や考え方から自分の考え方を深めたり変容させたりする時間を設定する。

### 3 指導の実際

第一 次	単元の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読書生活をふり返る。</li> <li>学習の見通しをもつ。</li> <li>「千年の釘にいどむ」を読み、内容をつかんで初発の感想を書く。</li> </ul>	<p>単元名を示し、単元の最後に「伝記」を読んで、感想文を書くという意欲をもたせる。</p>
第二 次	教材文「千年の釘に挑む」を読み取る。 ・「感想をまとめる」学習をする。 「感想文アイテム」として、まとめ方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「千年の釘にいどむ」を読み、古代の釘と現代の釘づくりを対比して読み取る。</li> <li>釘職人の「白鷹さん」の考え方や生き方を読み取る。</li> <li>「たいせつ」を読み、感想のまとめ方を知る。</li> <li>「白鷹さん」の考え方や生き方を評価する言葉と理由を書き、感想を書く。</li> <li>「白鷹さん」の考え方や生き方と自分の体験などを比べて考えを書く。</li> </ul>	
第三 次	読みを表現する。 ・「森を育てる漁師の話」を読み、感想文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「森を育てる漁師の話」を読み、漁師「飯田さん」の考え方や生き方について、感想を交流する。</li> <li>「感想文アイテム」を使って感想文を書く。</li> </ul>	<p>「白鷹さん」に対する感想のまとめ方を生かして、「飯田さん」に対する感想を書き、交流する。</p>

教材文で「つけた力」を生かして、感想文を書く。(活用する場)

C-1 指導案

C-2 板書

C-3 ワークシート

C-4 教室掲示

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ①単元名の工夫

- 児童は単元の終末を意識しながら、「感想文を書く」ことに向かって自分なりの考えをもとうと意欲的に読んだり、自分の考えを書いたりすることができた。
- 本単元に入る前の読書アンケートでは「伝記やノンフィクション」の本を読んでいる児童が少なかったが、単元終了後には朝読書で伝記を読む児童が増え、読書の幅を広げることができた。

##### ②「活用力」を意識した単元計画の工夫

- 「千年の釘にいどむ」の「白鷹さん」に対して、考え方や生き方を学習したことを生かして「森に生きる漁師の話」の「飯田さん」は「どんな人なのだろう」と興味をもって読んだ。そして、「感想文アイテム」を使って、自分の心に残った根拠となる文から「飯田さん」を評価したり、自分と比べて考えたりして感想を書くことができた。
- 書いた感想を交流し、友だちの考えから自分の気がつかなかった「飯田さん」への思いを聞き、自分の感想に取り入れることができた。「感想をまとめる」方法は同じであるが、「飯田さん」に対する思いはそれぞれに違うことを感じながら交流した。友だちの考え方や思いは、自分にとっての新たな学びとなったという感想がみられた。(「友だちの考えの活用」)
- 学習後の夏休み読書感想文に対しては「どうやって読書感想文を書くのか分かっているよ」と自信をみせた。また、感想文を書くことが苦手だった児童が「野球選手の本を読んで書いてみよう」と意欲を見せたり、2冊分の読書感想文を書いたりしてくる児童もいた。読書感想文を書くことは難しいという意識が薄れ積極的に取り組もうとする様子がうかがえた。

#### (2) 課題

- 今後も習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相手により伝わる表現方法を工夫したり、様々な文章を読み取るための力をつけたりするために学習を計画する。そのために、第三次の「表現する」場での効果的な言語活動について研究し計画的に取り組んでいく必要がある。